

音楽IIの目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
---------	--

内容の取扱い	(5) 内容のAの(3)の指導に当たっては、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成することを重視するとともに、作品を記録する方法を工夫させるものとする。 (6) 内容のBの指導に当たっては、楽曲や演奏について根拠をもって批評する活動などを取り入れるようにする。 (7) 内容のA及びBの教材については、地域や学校の実態等を考慮し、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽から幅広く扱うようにする。また、Bの教材については、アジア地域の諸民族の音楽を含めて扱うようにする。 (8) 音や音楽と生活や社会とのかかわりを考えさせ、音環境への関心を高めるよう配慮するものとする。また、音楽に関する知的財産権などについて配慮し、著作物等を尊重する態度の形成を図るようにする。
(音楽I 3 内容の取扱い)	
(2) 生徒の特性等を考慮し、内容のAの(3)のア、イ又はウのうち一つ以上を選択して扱うことができる。	
(3) 内容のAの指導に当たっては、生徒の特性等を考慮し、視唱と視奏及び読譜と記譜の指導を含めるものとする。	
(4) 内容のAの指導に当たっては、我が国の伝統的な歌唱及び和楽器を含めて扱うようにする。また、内容のBのエとの関連を図るよう配慮するものとする。	

主な教材	題材の指導内容と学習活動	
	主な指導内容	主な学習活動
糸／何度でも／Imagine／からたちの花	・歌詞に込められた思いと曲想とのかかわり ・曲の雰囲気や合った歌唱表現 ・楽譜に示された作曲者の意図を生かした表現	・歌詞に込められた思いを感じ取り、声の音色を工夫して音楽表現に結び付けながら歌う ・声の音色や強弱、旋律の特徴などを生かし、曲の雰囲気や合った音楽表現を工夫して歌う ・楽譜に示された作曲者の意図を理解し、自分なりのイメージをもって歌う
うつろの心／女心の歌	・ベルカントの発声法とイタリア語の発音 ・曲想と歌詞が表す情景や心情の表現	・ベルカントの発声法とイタリア語の発音に注意する ・歌詞の内容と音楽とのかかわりを考え、曲想をとらえて、ふさわしい表現を工夫する
文楽『一谷嫩軍記』(組討の段)／『一谷嫩軍記』(組討の段)から	・義太夫節と文楽の歴史と、『一谷嫩軍記』のあらすじの理解 ・太夫と三味線についての理解 ・義太夫節における声の音色や節回しなどの特徴	・日本の伝統芸能の一つである文楽と義太夫節の関係や歴史を理解する ・義太夫節の表現の特徴を理解し、イメージをもって聴く ・義太夫節の声の音色や節回しなどの特徴を感じ取り、表現する
One	・楽器の音色と表現上の効果とのかかわり ・リズムの特徴や曲想の理解と表現の工夫	・グループに分かれ、編成例を参考にそれぞれのパートに合う音色を考え、楽器を選ぶ ・柔らかく弾むスウィングのリズムを感じ取り、ミュージカルでダンサーたちが歌い踊る様子などをイメージして演奏する
時代を超えて鳴り響く《怒りの日》	・グレゴリオ聖歌の《怒りの日》の旋律の理解 ・多くの作曲家が《怒りの日》の旋律を用いていること ・各作曲家による《怒りの日》の旋律の用い方の違いについての批評	・グレゴリオ聖歌の《怒りの日》の歌詞が表す場面を理解する ・《怒りの日》の旋律が、多くの作曲家にとって創作の源になっていることを理解して鑑賞する ・各曲を聴き比べ、喚起されたイメージなどを自分なりに言葉で表す
BGMをつくらう	・BGMを付ける対象、場面、BGMのタイプの選択 ・サウンド系のBGMもしくはメロディー系のBGMの創作 ・創作したBGMの発表	・サウンド系の場合、打楽器や身の回りの物、ボディパーカッションなどを選んで創作する ・メロディー系の場合、場面の雰囲気や合いそうな音階を選んで創作する ・組み合わせ方、反復、強弱、変奏などを工夫して曲を構成し、BGMを付けた対象とともに発表する
音楽史上の大事件となった『春の祭典』	・リズムとアクセントとの関係の理解 ・不協和な響きの特徴の理解 ・様々な要素に基づく、根拠をもった批評活動	・グループに分かれて、ホルンのリズムと弦楽器群のリズムを打ち、アクセントによる不規則なリズムを理解する ・E♭7とEの和音が同時に鳴らされることにより、不協和な響きが生み出されていることを理解する ・初演時のパレエの振り付けや新聞批評なども参考にして、『春の祭典』について自分の意見を書く
流浪の民	・合唱と独唱のコントラストを生かした表現の工夫 ・歌詞の内容の理解とイメージをもった合唱 ・打楽器を加えた演奏	・合唱と独唱の変化を生かして、曲調にふさわしい表現を工夫する ・歌詞の表す情景を理解して、表現したい音楽のイメージをもって合唱する ・トライアングルやタンブリンなどの打楽器のリズムを工夫して加える
秋の宵	・篠笛の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわり ・鈴と太鼓の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわり ・イメージをもった和楽器の合奏	・篠笛の音色や奏法を生かして演奏する ・鈴と太鼓の音色や奏法を生かして演奏する ・「作曲者の言葉」や曲想から、イメージを膨らませて和楽器の合奏をする
能『敦盛』／『平家物語』の音楽	・『平家物語』の「敦盛最期」を題材にした能の鑑賞 ・平家「祇園精舎」の鑑賞	・日本の伝統芸能の一つである能の歴史的背景や表現の特徴を理解し、鑑賞する ・琵琶の弾き語りや『平家物語』を語る平家を理解し、鑑賞する
Stand By Me	・ギターの音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわり ・曲種に応じた発声の特徴と表現上の効果とのかかわり ・各パートの役割や働きを理解した合奏と歌唱	・メロディー、伴奏、ベースラインを分担し、役割に合わせた音色や奏法で練習する ・英語の歌詞を理解して、曲種に合った発声で歌う ・メロディー、伴奏、ベースライン、歌の各パートの役割を理解し、ふさわしい表現を工夫して合わせる
「ラマ物語」を題材とした芸能	・「ラマ物語」を題材とした3つの芸能の表現の特徴と、それらの共通点や相違点の理解 ・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわり	・物語の情景や登場人物の心情などが、どのような声や楽器の音色で表現されているかを比較しながら鑑賞する ・3つの芸能の違いなどについて、鑑賞後に批評文を書いたり、感想を述べ合ったりする
愛の讃歌／夢のあとに	・フランス語の発音とその特徴 ・シャンソンとメロディの雰囲気の違いの理解	・“r”や鼻母音などのフランス語の特徴的な発音に注意して、フランス語らしい発音で歌う ・シャンソンとメロディのジャンルの違いを理解して、それぞれの雰囲気や合った表現を工夫する
4つのアリアの特徴を聴き比べてみよう	・『カルメン』のあらすじと4人の登場人物の性格の理解 ・4人の性格とそれぞれが歌うアリアの音楽的特徴とのかかわり	・前の題材で歌ったシャンソンやメロディと比較しながら、同じフランス語のアリアを聴き、違いを理解する ・それぞれのアリアの特徴を調べ、それらと音楽表現や性格描写との結び付きを理解して鑑賞する
ロンド	・アルトリコーダーの音色の特徴とアンサンブルによる表現上の効果	・互いの音を聴き合い、表現を工夫して、よく響き合うリコーダーのアンサンブルをする
バッハの協奏曲を聴こう／(参考：ヴァイオリン協奏曲の名曲を聴こう)	・バロック時代の協奏曲であるコンチェルト グロッソの理解 ・総奏部分と独奏部分の展開や響きの対比の理解	・前の題材で演奏したリコーダーが活躍するバロック時代の協奏曲を聴き、音色の特徴や表現上の効果について理解を深める ・協奏曲の歴史やコンチェルト グロッソの構造を理解する ・総奏部分と独奏部分の旋律の違いや調の変化などが楽曲の構造と関係していることを理解して鑑賞する
ポピュラー音楽／音楽の著作権について知ろう	・ジャズの特徴であるスウィングのリズムの理解 ・ロックの特徴である8ビートの理解 ・音楽の著作権の理解	・ジャズとロックのそれぞれの歴史とその編成やリズムの特徴を理解し、両者の違いを踏まえながら鑑賞する ・音楽の著作権について理解する